

第4日

平成29年3月3日（金）

午前9時30分開議

○議長（浅尾静二君） 皆さん、おはようございます。これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は16名で、会議は成立いたします。

本日の議事日程については、お手元に配付のとおりであります。御了承願います。

日程に従い、一般質問を行います。

質問通告者及び順位はお手元に配付のとおりであります。申し合わせにより、1人当たりの質問時間は答弁時間を含め70分以内となっております。御了承願います。

それでは、最初に4番重松一英議員の質問を許可します。4番重松一英議員。

（4番重松一英君登壇）

○4番（重松一英君） 皆様、おはようございます。4番議員の重松一英でございます。傍聴席の皆様、早朝よりおいでいただきましてありがとうございます。

国では、今国会で働き方改革について議論があっておりますが、一地方議会の朝倉市で、3カ月前の12月議会で、残業問題、過重労働の問題など議論できましたことは意義深いことだったと思っております。36協定などの意味がよく理解できませんでしたので、職安や労働基準監督署に勉強に行きまして質問いたしました。

国は国で、朝倉市は朝倉市の課題について議論を深めていくことが重要だと考えております。3月議会では、朝倉市の人口減少から来る財政問題、それを考えていく中で、今考えなければならない問題、今取り組んではいけない問題、朝倉市に今までも、これからも住み続けて、幸せな人生だったなど皆が感じられるような課題について、これからも質問していきたいと思っております。

2月16日の読売新聞の1面に、「安心の子育て・介護へ」という見出しで、5項目の提案がなされておりました。

1点目は、「カギは1～2歳児保育だ」「少人数向け保育施設の増設を急げ」「幼稚園から『認定こども園』へ」「認可外施設の透明性を高めよ」。

2点目は、「安心の介護と認知症対策を」「『自立支援型』のケアに重点を」「民間の保険外サービスを生かせ」「共生社会の実現へ認知症基本法を」。

3点目は、「保育・介護の人材確保を急げ」「処遇の改善へ重点的に投資せよ」「保育、介護の基本資格を共通化」「A I、I T、ロボットの活用を推進」。

4点目は、「働き方改革で担い手を支援」「長時間労働の是正で出生率向上も」「育休は、パパも、『非正規』雇用者も」「介護離職ゼロへ、雇用保険を活用」。

5点目は、「あらゆる資金の活用を」「社会保障・税の一体改革を再構築」「相続税非課税国債は有力な選択肢だ」「地域の課題解決に共助を生かせ」。

これは国の政策に対しての提言ですが、朝倉市にも、これからの市政に対してのヒント

が多く含まれていると思います。

以下の質問は、質問席より続行いたします。

(4番重松一英君降壇)

○議長(浅尾静二君) 4番重松一英議員。

○4番(重松一英君) まず最初に、朝農跡地の体育施設建設について伺います。

平成29年度の市長施政方針では、十文字公園に整備予定の総合的体育施設について、「着手時期については、将来の財政状況を見ながら計画を見直し、延期することも考えまして、実施設計費は、平成29年度当初予算に計上しないことといたしました」とあります。

その理由として、「秋月博物館建設事業、新・杷木小学校建設事業、秋月小中一貫校建設事業、新庁舎建設事業、十文字公園整備事業に取り組んでいる。十文字公園の整備を都市公園整備事業で取り組むこととした際に、交付金の獲得が極めて厳しい状況にあることを申ししておりましたが、現在、不透明度がさらにましてあります。また、長年の懸案でありました国道322号のクランク解消及びこれに伴う甘木鉄道甘木駅と移設が見込まれる西鉄甘木駅の駅前を含む周辺整備は、将来の朝倉市の都市部地域発展に大きく貢献すると考えております。これから構想を練ることとしていますが、一定の事業費が必要になってくることが想定されます。このような状況を鑑み、総合的体育施設の工事着手時期については、将来の財政状況を見ながら計画を見直し、延期することも考えまして、実施設計費は、平成29年度当初予算に計上しないことといたしました」とあります。

これは、これまでの質疑と答弁されたものと明らかに違う方針が示されました。私も戸惑っておりますが、延期するというのと断念するというのでは大きな違いがありますが、断念するというのも念頭に置いての市長の考えでしょうか、市長の答弁をお願いいたします。

○議長(浅尾静二君) 市長。

○市長(森田俊介君) まず、そのことについては、実は12月議会の一般質問の答弁でもそういったことは申し上げておりましたので、全協で突然申し上げたということではないというふうに私は認識をしております。

あわせて、皆さん方も恐らく共通の思いがあるかと思います。やはり体育施設というのはあったほうがいい。ぜひ必要なものであると。

ただ、申し上げますように、いろいろと事情、財政的なもの、それから朝倉市の今後の事業の関係の兼ね合いを見たときに、じゃ予定どおり、29年度に実施設計を上げていく、そのことに対してちょっと猶予を持って、今後のいわゆる、もちろん状況を十分精査した上、そしてあわせて国の状況、要するに交付金の状況もございます。

さっき申し上げましたように、あそこについては公園事業でやろうとしております。ちょうど御存じのように、平成32年、2020年、東京オリンピックがあります。その前年は、ラグビーワールドカップがございまして、そうしますと、国の公園事業を使う事業になりま

すので、非常にそういった面で予算的に厳しくなる。そういったことも考慮しながら、これは当面、これについては中止という話はしておりません。様子を見ながら、今後財政の状況を見ながら判断していくという話でございますので、そういうふうに御理解をいただきたいというふうに思います。

○議長（浅尾静二君） 4番重松一英議員。

○4番（重松一英君） ある市民の家族の話として聞いてください。御主人がドイツのベンツかクラウンを買いたいと、奥さんに話をしました。奥さんいわく、うちの商売も景気がいいときと比べて利益が少なくなってきた今、家計簿の出費は大変なんです。うちは商売もしているから、従業員の給料もばかにならないし、おばあちゃんにも金がかかる。子どもの学費もミルク代、おむつ代まで考えたら大変なんです。どこかの議員さんは50ccバイクで雨がっぱを着て、赤ヘルでうろうろしている人もいるらしいです。あの方はそれで似合っておりますけれども、本人も納得しているでしょうから、うちの旦那さんにそこまでしろとは言いませんが、せめて高級車ではなくて、カローラか軽ぐらいで我慢してください。どうしてもというなら、私は里に帰らせていただきますというような会話のときに、頭にきて、ちゃぶ台をひっくり返すか、ああ、わかった、今回はおまえの言うとおりにカローラぐらいにしようと言うか、これは例え話でしたが、私も体育館建設に真っ向から反対と言っているわけではありません。この前の施政方針のほうでも、今はちょっと風当たりが強い、時期をずらしてということになりますと、1年後の市長選を意識されて、そこで信任を得たなら、再度提出するぞというようなげすの勘繰りも出てまいります。

スポーツ関係者の方々からの要望も上がっております。署名もありますし、私もその方たちにお世話になっている方もいらっしゃいます。財政が許せば、市民プールでもあわせてつくってもらいたいくらいの気持ちはかねがね私も持っておりました。これまでたびたび市の財政状況の報告を受けておりますが、人口減少の今、年々財政状況が厳しくなっていくことは目に見えております。考えられる方法として、今、朝倉にある体育館と同等程度の体育館を建設すると仮定した場合、建設費と維持管理費が幾らぐらいになるか、お示し願います。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） まず、前提といたしまして、体育館の規模が縮小されれば、つまり面積が縮小されれば、その面積の割合に応じて減額できることではないということでございます。

また、維持管理費についても、面積に応じて減額できることではないというふうに考えております。つまり、体育施設の仕様とか空調設備とか、どういう形にするかというような形になりますので、面積だけでされるものではないということでございます。

ただ、朝倉体育センター程度ということでございますので、規模を小さくすると、朝倉体育センター程度の規模に持っていくというふうな試算をしております。

現在の設計での面積は7,700平米程度とグリーンテクノセンター1,700平米程度がござい  
ますけれども、グリーンテクノセンターにつきましては、その面積の改修が必要になって  
まいります。仮に朝倉体育センター3,700平米程度というふうにするような計算をいたし  
ますと、約20億円という単純計算になります。

それから、概算管理運営費でございます。これにつきましても、機械設備がどうなるか  
ということ、それから管理の人的費がどうなるかといった配置人数としても考える必要が  
ございまして、配置人数につきましては前回お示ししました人数で算出するという  
ふうなことでしてみますと、指定管理料、持ち出しという数字になりますと、3,650万円  
という数字に試算することができます。もう一回申しますと、概算建築費は約20億円、維  
持管理費につきましては3,650万円程度というような試算をいたしました。以上です。

○議長（浅尾静二君） 4番重松一英議員。

○4番（重松一英君） 答弁ありがとうございました。今の答弁聞きまして、今回は車で  
いうカローラクラスの中型車でやっていくのが賢明だと私は考えておりますけれども、一、  
二年先延ばしにしても、どうしても高級車がいいという考えが市長にあるのか、もう一  
度お聞かせください。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 車と例えるというのちょっと何かと思います。そして、この体  
育館というのもの、やはり住民サービスの一つです。ですから、できるだけやはりいいも  
のをつくりたい、これは当然誰でもそう思うことだろうと思います。ですから、その可能  
性というものを財政面、それからほかの面を含めて考えながら、ここ数年で、ここを延長  
することによってきちっと精査をしたいということでもありますから、今時点で小さくしま  
すとか、そういうことは、私は思っておりません。

ただ、最終的に非常に厳しい状況であると、しかし、つくるとするならば選択肢の一つ  
として、今言われたようなことも考えざるを得んのかなという考え方ありますけど、今時  
点で縮小しますと、そういうことは考えておりませんということをおし上げておきます。

○議長（浅尾静二君） 4番重松一英議員。

○4番（重松一英君） たびたびありがとうございます。国でも市でも、世論、民意を大  
事にしなければなりません。民意を大事にした首長が末永く支持を受けると思います。ど  
うぞよろしく願いいたします。

次の質問に移らせていただきます。

老後を我が家で末永く生活するためにはというテーマで、客観的状況としましては、国  
が病院のベッド数を減らす方針を示してきました。それと、要介護1から特養の入所申し  
込みが今までできていたのが、要介護3からでないとい入所申し込みができなくなりました。  
介護難民という言葉もささやかれております。入院や入所が簡単にはできなくなるのでは  
ないかと心配しております。

ですが、私たちはできることなら、可能な限り我が家で老後を過ごしたいと思っている方が多いと思います。東京では介護スタッフ不足に悩まされて、地方に移住してもらおうという動きも出ております。かつては何々ニュータウンと称して若い人たちでにぎわっていたところも、今ではシルバータウンとなっております。

朝倉市としても、私たち住民が老後を安心して生活していけるような取り組みをしていかなければならないと思いますが、市として現在取り組んでいること、今後取り組んでいく考えはどうかということがありますでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（宮地ミドリ君） 在宅で高齢者の方が住みなれた地域で暮らし続けていくための体制づくりというのが、議員御承知だと思いますが、地域包括支援システムのこととございまして、在宅で高齢者の方が暮らし続けるための施策として、まず1点、介護予防の取り組みというのをまず市では取り組んでおります。当然長く地域で生活していくためには元気でいなければなりませんので、健康寿命を御存じだと思いますが、健康寿命を延ばすことが特に重要と考えております。市では要介護状態とならないための介護予防事業とか、生きがいつくりのためのさまざまな事業にこれまでも取り組んでおります。

まず、幾つか介護予防事業の主なものを挙げてみますと、生きがいデイサービス事業、地域ミニデイサービス事業、あと筋力トレーニング事業、それとステップ運動等々取り組んでいるところでございます。

また、平成27年の8月からは、介護予防ポイント制度を取り入れております。これは高齢者の生きがいつくりを目的としておりますし、まず介護予防教室の参加も助長することを目的として取り組んでいる制度とございます。そのほか老人クラブとか、シルバー人材センターの運営補助も行っておりまして、高齢になっても生きがいを持って就労して、活動もしていただくということを市の施策として進めているところでございます。

それとまた、平成27年4月からは介護保険法改正に伴って、介護予防事業が要支援1、2の方の通所介護、訪問介護も含めた介護予防・日常生活支援総合事業、新しい総合事業と申しますが、これが平成29年4月までに市の独自事業として取り組まなければならないというふうに法改正でなっております。そのため、朝倉市では平成28年3月から、現行の事業をそのまま新しい事業、総合事業へと移行しております。

そして、平成29年度からは要支援1、2の介護度の軽い方について、これまでの専門的知識を持った事業所だけでなく、元気な高齢者、あるいはコミュニティなどの住民活力を生かした介護予防サービスの創出、シルバー人材センター等を活用した介護予防事業等に取り組んでいきたいというふうに今考えております。

○議長（浅尾静二君） 4番重松一英議員。

○4番（重松一英君） ほかのことで、また認知症のことなどについてお伺いしたいと思いますけれども、この前、テレビでやっておりましたけれども、高齢者の車運転中の事故

も多くなりまして、報告されております。免許更新時の高齢者講習のときに認知症の疑いがあると判定された人の情報を包括支援センターに通知して、支援をしていくという動きも出ております。

3月1日の夕方のニュースでも、東京の81歳の認知症の妻を84歳の旦那さんが介護疲れから奥さんの首を絞めて殺し、自分も睡眠薬を飲んで死のうとしたそうです。捜査員が行くと、「60年も連れ添ったのにごめんな」と、何度も奥さんに言っていたそうです。近所の人話では、とても愛妻家だったそうです。こういう悲しいニュースが毎日のように流れております。人ごとではありません。あすは我が身であります。

私が民生委員をしていたときに大牟田の支部が表彰を受けましたけれども、それも認知症に対する取り組みが熱心だったからでした。偶然、テレビで大牟田の取り組みが放送されておりました。自分たちの中で、認知症の役の人を決めて、その人を捜しにまちに出て、その後のサポートをするというような筋書きでした。私たちも困っている人がいれば、メイ・アイ・ヘルプ・ユウと言えるような心がけが必要だと思います。何かお手伝いをしましょうかという思いだと思います。

これも民生委員や社協のときの体験ですけれども、蜷城では千歳弁当というのをやっていた。今もやっておりますが、市の社協の支援も受けまして、月に2回、御飯もおかずもついて100円の弁当を配食しております。約30人ぐらいのボランティアの人たちが2班に分かれて、朝から弁当をつくり、民生委員を中心に昼の弁当の配達に行きます。ふだんなかなかドアを開けてくれない人も、その日だけは100円玉を握り締めて、11時半か12時ぐらいに待っていてくれます。そこで話もできて、安否確認もできるわけです。

ですが、民生委員の見守りも、ほかの会合や仕事が多くなったことで、月2回ぐらいが限度であると思います。以前はシルバーが毎日弁当を配食して安否確認や、きょうは食べられていないな、御飯が残っているなとか、きょうは半分ぐらい食べているというようなチェックができますから、体の調子などもチェックできました。

今は民間の介護施設がかかわって弁当の配食事業をやっているようですが、これを普及させて、弁当配食で本人の健康チェックや安否確認をやっていけたらいいと思っております。話し相手にもなり、孤立が防げると思います。市の広報紙などで市民の方にそういう制度があることを知らせていただき、利用される方が多くなることをお願いしたいと思います。そのことについてちょっと答弁よろしいですか、その弁当配食などのことについて。

○議長（浅尾静二君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（宮地ミドリ君） 配食事業、食の自立支援事業というのを市が取り組んでいることをお尋ねだと思います。配食サービスについては、議員おっしゃいますように、以前はシルバー人材センターに配達、それと見守りをお願いしておりました。

その後、今は別の事業所に調理から配達、安否確認までお願いしております。シルバーの配達のとおりと同じように、きちっと手渡しで配食のお弁当をお配りするのが基本となっ

ております。もしいらっしゃらないときは、どちらにいらっしゃるかの確認までして、確実に安否確認も行っている状況でございますので、以前と同じような高齢者の見守りはしているところでございます。配食数についても、対象者については一定の基準がございますので、どなたでもということにはなりません、配食数は年々増加しております。そういう状況でございます。

○議長（浅尾静二君） 4番重松一英議員。

○4番（重松一英君） ありがとうございます。これからもよろしく願いいたします。次の質問に移らせていただきます。

企業誘致のため、土地の先行取得はということで、企業誘致係の新設を、そういうことを考えておりました。朝倉市の人口の増加を図るためには2つの方法があると思います、大きな方法では、企業を誘致して、そこで働く人、その家族などの人口の増加を考える。もう一方で、福岡都市圏や久留米市への通勤の利便性を考えて、ベッドタウンとして交通網を整備するか。どちらも相手のあることですので、簡単なことではないですけれども、筑前町のヤクルトや久留米市田主丸のダイハツなどの例を考えますと、朝倉市もやり方次第では不可能ではありません。

ダイハツ周辺の久留米市側とうきは市側にまたがる約33ヘクタールの農地を県の企業局が開発しておりますが、そこを見に行ってきましたけれども、そこは柿畑や米が植わっている土地でした。農業振興地域を除外するのに市がやるよりも県のほうがやりやすいのかなとも考えましたけれども、朝倉市も広大な土地があります。市のこれからの人口増を図るための方策も含めて、県や国の協力を仰ぎながら進めていくべきだろうと考えます。

そのためには、市の明確なビジョンを示す必要があります。市の組織機構の中にも企業誘致係を新設して、その道のエキスパートを集め、その中には民間の知恵、人材もかりて、真剣に取り組まないと、少ないチャンスをはかの市町村に持っていかれます。今は、企業誘致に関しては総合政策課のほうでしょうか、商工観光課でしょうか。

○議長（浅尾静二君） 農林商工部長。

○農林商工部長（岩切範宏君） 今、企業誘致に関する業務といたしましては、商工観光課のほうで担当しております。以上です。

○議長（浅尾静二君） 4番重松一英議員。

○4番（重松一英君） いずれにしましても、企業誘致は真剣に取り組んでいただきたいと思えます。背水の陣です。後がありませんので、どうぞよろしく願いいたします。

次の質問に移らせていただきます。

人口激減の中、市職員の給与体系、職員数は適正かということでお尋ねいたします。

広報あさくらの2月15日号に「市職員の給与と職員数を公表します」ということで、詳しく書いてありましたけれども、「平成19年12月に策定した第1次朝倉市総合計画基本構想に基づき、職員数の削減に努めています」とあります。この基本構想ができた時点で、

現在のような人口減少になるとは誰もが予想していなかったと思います。平成20年3月と今29年3月時点での朝倉市の人口比と職員数の推移はどうなっておりますでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 平成20年3月時点の人口ですが、これは住基人口で申します。5万9,469人、28年3月は5万4,995人ということで、人口は20年から見ますと、8.6%減少しております。

それから、職員数ですが、平成20年は546名、平成28年、これはいずれも4月1日ですが、474人、職員数については14.9%の減となっております。

○議長（浅尾静二君） 4番重松一英議員。

○4番（重松一英君） ありがとうございます。私は、直接テレビを見たわけではないんですけども、市民の方からの情報によりますと、先日テレビで、福岡県内の市町村職員の給与を比較した場合に、1位が行橋市で、小郡市と並んで朝倉市が2番目に高いということが放送されたそうです。そのことについて、コメントをお願いいたします。もし違うなら、否定してください。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） その報道につきましては、ラスパイレス指数の順位というふうに受けとめております。102.1という数字でございますけれども、この数字につきましては、ラスパイレス指数につきましては、職員の一人一人の給与の水準、しかも基本給といえますか、本俸の水準を国と比較をするものでございます。

職員の一人一人の給与の平均といえますか、単純平均ではございませんで、学歴と経歴年数をもとにして国と比較をいたします。その数字につきましては102.1ということで、先ほど議員おっしゃいましたとおり、県内では2番目に高かったということでございますけれども、職員のといえますか、給料につきましては、一人一人の水準というものもありますけれども、例えば今申しましたラスパイレス指数につきましては、基本給の比較、それから職員の給与と申しますのはほかに、例えば扶養手当とか通勤手当とか、さまざまな手当がございます。そういった手当も含めたところの比較も必要ではなからうかというふうに思っております。

それから、一人一人の水準もありますけれども、朝倉市全体の職員給といえますか、全体としての給与水準がどうあるかといったことも見る必要があらうかというふうに思います。

つまり、本俸だけの比較で、給与が高い低いというようなものではないのではなからうかと、ちなみに先ほど申しました手当等も含めた県内の水準は幾らかというふうなデータがございますので、それを申しますと、さまざまな手当を含めたところでは、県内26市、政令市を除いておるんですけれども、そのうちでは12位というような水準になっているところでございます。給与の水準につきましては、先ほど申しましたように、さまざまな視



点から見る必要があるかというふうに思っているところでございます。

○議長（浅尾静二君） 4番重松一英議員。

○4番（重松一英君） ありがとうございます。3月1日の参議院の国会中継を見ていましたら、地方公共団体の公務員制度改革の議論があってございました。一般職と同じように、行政の重要な担い手であり、働いております非常勤や派遣職員の待遇改善などが議論されておりました。朝倉市では、一般職以外の職員の職員数と支払い額はどのような状況でしょうか。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 非常勤職員ということでございますけれども、一般の正規の職員以外に職員数の区分といたしましては、嘱託職員とか臨時職員とかというような区分がございます。その状況でございますけれども、また額を算定する際に普通会計とか全会計とか、いろいろありますけれども、全部を取りまとめた分で申しますと、全会計を見ますと、嘱託職員につきましては、これは平成27年度決算で見えますと、4億9,875万1,000円、これは嘱託職員の決算でございます。それから、臨時職員1億7,098万2,000円、合計いたしますと、6億6,973万3,000円といった嘱託職員、臨時職員の合計になります。

それから、そういう職員ではございませんけれども、人材派遣会社に委託するといった場合もあります。これは産休とか育休とか病休とか、そういう臨時的な場合に委託する場合がございますので、それも人件費と同様なものというように考えますと、決算額は2,420万円、そういう決算数値になります。以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 4番重松一英議員。

○4番（重松一英君） ありがとうございます。市民感情からすれば、市の職員の給与が市内の民間企業の給与と比べて高いということをよく言われます。「そんならあんたが市役所を受けりゃええやんな」と私が言うと、「ばかが、俺が通るなら文句を言うもんか。通らんとわかちよるき、文句言いよるったい」というようなお客さんとの会話をよくやりますけれども、市の財政が厳しくなることが予想されております今、議論が必要だと考えます。これからのさらなる改革も求めていきたいと思っております。

それと、済みません、ちょっと介護のほうで保健福祉部長によろしいでしょうか。この前も、次の質問になりますけれども、4番続けてよろしいですか。

○議長（浅尾静二君） はい。

○4番（重松一英君） 保健福祉部長に質問よろしいでしょうか。緊急通報装置が平成28年5月で247人、おたすけキットが1,025人ということで、この前お伺いしました、前回の質問で。前も質問しましたがけれども、東峰地区の光ファイバーをつないでのテレビ。

○議長（浅尾静二君） 4番重松一英議員。

○4番（重松一英君） はい。

○議長（浅尾静二君） 通告外の質問になっているようでございます。注意いたします。

通告外になっております。

○4番（重松一英君）　そうですね。

○議長（浅尾静二君）　今の質問は通告外になっておりますので、注意を促します。

○4番（重松一英君）　そしたら、もうまずいですね、通告外は。

○議長（浅尾静二君）　質問できません。

○4番（重松一英君）　はい。

○議長（浅尾静二君）　4番重松一英議員。

○4番（重松一英君）　済みません。そしたら、時間がちょっと余りましたけれども、申しわけありません。ここで質問を終わりたいと思います。

○議長（浅尾静二君）　4番重松一英議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午前10時6分休憩